

横浜 SSJ ニュース

第 19 号
2015 年 3 月 16 日

発行：横浜 SSJ（特定非営利活動法人横浜市精神障がい者就労支援事業会）
〒240-0004 神奈川県横浜市中区翁町 1-6-7 関内伊藤ビル4F C号
TEL 045-228-8220 FAX 045-228-8221
発行責任者：理事長 青柳 智夫
編集：横浜 SSJ ニュース編集委員会
印刷：ワークショップメンバーズ

更なる就労支援事業の成果獲得と、組織の活性化に臨む

2014年12月18日、国の障害福祉サービス等報酬改定検討チームの会合で、「平成27年度障害福祉サービス等報酬改定の基本的な方向性について」というテーマの議論がなされ、当法人がここ数年、様々な機会で見えてきた「就労移行後の定着支援策の充実」について、「就職時の適切なマッチングや継続的な職場定着支援を推進する」という基本的な考え方が出され、対応策がなされようとしています。

文言通りの施策が推進されるよう、引き続き経過を慎重に見てゆくと共に、チャンスがあれば当法人の活動実績を踏まえた発信をしてゆくべき、と考えています。

さて、2014年の1年を振り返りますと、5事業所も、障害福祉サービス事業所も、様々な経過があったかと思いますが、職員の皆様、従業員の皆様の日々のご尽力の賜物で、何とか無事、過ごすことができました。5つくらい大きなニュースを掲げてみます。

- ① 理事会は、組織改革検討会委員会の答申、総会での決定を受け、常任理事会中心に重要事項の決定がなされるようにしました。来年度の組織の在り方、事業運営についても着々と積み上げられています。
- ② また、理事会と各現場責任者の意見をすりあわせ、風通し良く民主的な職場にするため、新たに設置された施設長会議では、理事2名を含め、毎月活発な議論がなされています。
- ③ 組織の要である本部事務局には、長年、民間企業の総務・経理の仕事をしてきた力強い事務局長が配置されました。各施設長との意見交換、情報交換も頻繁に行い、合理的・効率的な組織運営に努めています。
- ④ 就労継続支援 A 型事業所さらには8月に待望の事務所移転が実現し、カフェガーデンさらから徒歩3分、地下鉄「伊勢佐木長者町」駅からも徒歩2分という立地で、職務がスムーズに進むようになりました。
- ⑤ そして、ジョブアシスト横浜、ワークショップメンバーズの多機能事業所では、印刷や草刈など新たな受注作業がいくつも増え、工賃アップで利用者の意欲も倍増しています。

法人全体の事業としては、来年度には、久保山が20周年を迎えるなど、新たな節目となります。

引き続き、理事会と施設、事業所、そして従業員・メンバー・利用者みなさんが一体となって、着実に歩みを進めてゆきましょう。

理事長 青柳 智夫

全国研修会 障害がある者の働く生活の実現に向けて！

平成27年2月15日、横浜市健康福祉総合センターにて日精連主催・第四回全国研修会 in 横浜が開催され120名程の当事者・関係機関が参加されました。

今回は“障害がある者の「働く生活」の実現に向けて！”をテーマとし、山科正寿氏(厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 障害福祉課 就労支援専門官)と松為信雄先生(文教学院大学 人間学部人間福祉学科教授)を招いて講演およびシンポジウムが行われました。

山科氏からは「日中活動支援の報酬改定とその方向」とし、来年度に就労支援含む日中活動サービスの報酬改定が行われるポイント及び次年度に予定される「障害者総合支援法」の改正についての報告、および就労系のアセスメントの際①アセスメント立てる為との二点を強調されました。(近日、厚生省より『アセスメント構築マニュアル』公開) 松為信雄先生からは「制度改革の方向と今後の地域就労支援の在り方」の講演が行われました。

障害者雇用促進法の改正(平成28年施行)により「障害者に対する差別禁止」「合理的配慮の提供義務」が明確化、障がい者雇用における制約が変化の兆しを見せていると同時に精神障がい者の就職及び新規求職申込件数が年々上昇していることなどが話されました。

さらに定着支援＝生活支援の重要性を強調されました。支援の在り方として疾患に伴う生活のしづらさにも焦点を当て、生活支援を行ってこそ盤石な定着支援になるとのことでしたが、業務の幅を広げることは同時に支援員一人当たりの負荷を大きくしてしまうことから、結果、人材確保及び人材育成の急務性が分かりました。続いてのシンポジウムはシンポジストに近藤友克氏(社会福祉法人 豊芯会)、渡辺史郎氏(社会福祉法人 らっく)、遠田千穂氏(富士ソフト企画株式会社)、槻田理氏(富士ソフト株式会社 人材開発部)横浜SSJ 理事長・青柳智夫氏以上5名とコーディネーターの松為先生を交え進行しました。

各事業所で定着支援＝生活支援を念頭に、“働く生活の実現に向けて”どこに重点を置いて支援すべきか。就労後の生活相談はどこで対応していくかを考えました。また、遠田氏からは企業が障がいを持った社員にどのような配慮・フォローアップを実施しているのか現場からの映像を交えつつ紹介され、それを受けて槻田氏から就労定着に至ったポイントを職場と生活両面から話していただき、就労を意識している方たちが具体的なイメージを描きやすい話を聞けました。

時間が押しすぎてしまい慌しく閉会を迎える(ある意味では嬉しい)ハプニングもありましたが、研修会は無事幕を閉じました。当事者と支援者が一堂に会し、共に福祉に携わる人間として今後の制度改革に沿った支援の在り方や当事者雇用の現状を共に学び、全体で一丸となって考えることはとても貴重な機会であると同時に課題に対する新たな切り口の模索になったのではと感じます。

(ジョブアシスト横浜：職員・小林 遥奈)



横浜 SSJ 事業所から

《久保山駐車場》

久保山事業所にパート職員として勤務して2月で2年になります。初めは湯茶の方で、働いていました。2ヶ月位で仕事の流れがわかってきた頃、自分の家で庭の整理をしていて、腰を痛めて1ヶ月半仕事を休ませてもらいました。湯茶の仕事を続ける事が無理なので、駐車場の方の仕事に変更してもらいました。

現在、私を含めて8名で駐車場管理業務に携わっています。年齢は50歳前後の人が中心となっています。勤務は土曜・日曜・祝日日中の一般墓参のお客様と夜間のお通夜に参列される会葬者様に向けて駐車場を管理・運営しています。普段は2人1組で勤務していますが、春と秋のお彼岸の時は、4名体制で対応しています。お彼岸の中日で火葬場が休場の時は、延べ500台近く駐車しています。最後にお金を扱っていますので領収書や小銭のチェックには神経を使います。

(駐車場担当職員 浅野正富)

※一緒に働いている皆様にも、駐車場で働いてみての感想を聞いてみました。

- ・屋外の作業なので、暑い日寒い日など大変な時もありますが、最後に売上計算して仕事が終わった時は達成感があります。
- ・暑い日や寒い日もありますが、お客様相手の大切な仕事なので、やりがいがあります。
- ・お客様が多く来ますと大変です。 ・個人的には接客の訓練になって、うれしいです。
- ・土日祝日は昼勤務が多く平日は夜勤務なので、生活のリズムがとりにくいです。
- ・自分の場合は忙しい方が充実感あります。今日は仕事やったなという気分です。

《 北部事業所より 》

北部事業所では現在、当事者職員として2名のパート職員が活躍されています。

今回はパート職員となり、「振り返ってみれば無我夢中の毎日でした。」と語る原さんにお話を伺ってみました。

— 原さんのあゆみ —

高校を卒業し、調理師専門学校へ入学。その後、数々のレストランに勤務。20代前半の頃、自動車部品工場で約7年勤務、そして発病。作業所へ通い、北部事業所に入職し14年目の2013年にパート職員となる。

自分は仕事が速いとか、行動力があるとかないので、休まず来ることが一番の目標でした。

今は、パート職員としての勤務にも慣れ、これからの目標は“一步一步、成長出来れば良いなあ〜と思います。”と語っていただきました。今後の活躍に期待です！ (北部斎場：職員・亀井智穂)

《地域活動支援センターすきっぷ》

*****すきっぷの「あれこれ」についてお伝えします！！

～すきっぷでの仲間同士による

新しい支え合いが出来ました～

すきっぷの施設まで来ることが出来ないが、長期の間一人で過ごすのはしんどい！とメンバーからSOSがありました。そこでメンバー、職員で相談し、別の場所で会って話をしよう！すきっぷから出向いて行こう！という新しい関わりが出来ました。

SOSを出したメンバーさんからは

- ・SOSを出すことが出来て良かった。
- ・すきっぷのメンバーだからSOSを出せた。
- ・困った仲間がいた時は、自分も支えようという気持ちになった。

出向いて行ってメンバーさんからは

- ・「自然に出来た」
- ・「新しい関わりが出来た」



新しくすきっぷメンバーになった方に聞いてみました。

～すきっぷに通い始めての感想は？～

- ・調子が良くなってきました。
 - ・通っていると色々な情報が手に入ります。
- ・外出する目標があるというのが良い。
 - ・生活にメリハリがついた。
- ・仲間と話すことで精神的に落ち着いた。
 - ・プログラムが豊富。



すきっぷでは、SST,アサーションなどスキルアップ・プログラムが毎日あります。参加しているメンバーさんに感想をインタビューしました。

Q:プログラムに参加して良かったことは？

A:仕事に就くのに会話は重要。ここで学んだ事が就労に活かされます。

Q:どのような事を練習しましたか？

A:短く話して、会話をやり取りするという事。実際に、ボールを使ってやりました。ボールを持っている人が話し、文章の「。」の部分で相手にボールを渡します。自分も相手も会話に加われ、「話しやすい」「聞きやすい」と言われたのが嬉しかったです。



(すきっぷ：職員・鈴木典子)

すきっぷメンバーの常盤智さんが11月末に亡くなられました。色々な話題を提供してくれすきっぷを盛り上げ、みんなのアイドルでした。「てっ、ゆ～か～」はすきっぷに残された名言です。



「第4回 浜家連 家族会研修会」に参加

2014年10月17日、浜家連（非特定営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合）の研修会に横浜SSJが参加しました。講師として青柳理事長が「就労支援について」、さらから虫生施設長が「横浜SSJと就労継続支援A型事業所さらの取り組み」について、従業員の長谷川政次さん、巻口佳裕さん、小田有紀子さん、久保山事業所から日高昭則さんが「当事者として働くことについての体験談」の発表を行いました。



虫生施設長と発表された従業員さん

特に、従業員さんの各発表は、持ち時間の20分をフルに活用し「病気をいかに克服し就労するに至ったか」また、「働き続けるコツや将来の夢」まで熱く語った内容は、来場者の方々に希望のメッセージとして伝わったようです。



それでは、今回参加された長谷川政次さんの声をお届けします。

「今回の発表で自分自身を振り返り気づいたことはありますか……？」

浜家連研修会での発表を振り返り気づいたことは、やはり改めて仕事ができる喜びを感じます。私は、さらというカフェとカラオケボックスの清掃をやらせていただいておりますが、いろいろな人に支えられながら、社会に貢献できると思うとありがたいことだと思います。

私は、20数年前に入院し障害が重かったのですが、そんな私が今、生き生きと働いている姿が、来場者の方に希望を持っていただければ、それも一つの貢献なのかなと思います。勤労は収入を得る手段ですが、それと同時に上司や仲間ができます。私の場合、上司は店長さんと職員さん、あと、さらの事業の一環である産直に来てくださるボランティアさんがそうなのですが、みなさん優しい方ばかりです。そういう方々に支えられながら働けるというのは本当にありがたいことだと思います。そういう方々との触れ合いがまた新しい世界を広げてくれます。こういうことは、一般社会ではあまりないことではないでしょうか？そういうことを考えると私はつくづく恵まれていると思います。また勤労を通してできる仲間はかけがえのないものです。邂逅(かいこう)というのは人生の宝だと思います。これからも、出会いを大切にしながら仕事に勤しみたいと思います。



邂逅(かいこう) 巡り合いの意

さらニュース



2014ポレポレまつりに参加

2014年11月8日

中区障害者団体連絡会と中区社会福祉協議会の共催で第18回ポレポレまつりが本牧いずみ公園で開催されました。

参加団体は、30団体でさらも3回目の参加となりました。当日は、小雨模様の天気で気温も低く寒い一日でしたが、温かいミネストローネ、産直野菜たっぷりのビーフン、さら自慢のスフレケーキ、産直でお世話になっている農家さんのお野菜を販売し、うれしいことに完売しました。



販売の様子



各事業所・参加者代表の皆さん

さらの宣伝が大好評!!

また、手芸サークルは、猫クリップやストラップなど手作り品を販売しました。ワークショップメンバーやすきっぷのメンバー、スタッフらと同じテントで販売し交流を深めることも出来ました。



カフェガーデンさら 渡辺啓子店長 退職 2014年12月

県精連のころから数えると約14年間「カフェガーデンさら」を支えてくださいました。穏やかでいつも笑顔の渡辺店長に、メンバーさんだけでなく職員も心癒されていました。忙しい時間のなか、食事作りだけでなくメンバーさんの支援にも関わって下さいました。深く感謝いたします。

これからは、月に数回 ボランティアとしてかかわって下さる予定です。

長い間ありがとうございました。そして、これからもよろしく願っています。

(さら：職員・大川早苗)



ワークショップメンバーズだより

～H26年の活動を振り返って～

ワークショップメンバーズではこの1年、通常の内職作業(採血管シール貼り、文房具の組み立てなど)や印刷作業を精力的に行ってきました。

それに加え、昨年度立ち上げた自主製品作業、ハンドメイドジュエリー(アクセサリの制作販売)での活動は、目覚ましい進歩をとげており、活動の初期から行っているさら・とちの木での販売にとどまらず、さまざまなバザーに積極的に参加したり売り上げも着実に成果を上げています。

固定客も増え、ターゲットを意識した商品企画、アフターフォローなどお客様の立場を考慮したりとメンバーの意識も変わってきたように感じます。

今後は通常作業と同じように、作業の一環として認められることを目標にしています。(ワーク:メンバー・K.T)



▲バリエーションに富んだ商品とバザーの様子。

新しい印刷機を導入しました!

様々な工程が可能になり、印刷作業に新たな可能性が広がります。

カラー印刷も出来て解像度も各段に上がり、業者レベルの印刷ができるようになりました。今後は、機械の操作を新たに覚えたりと課題はありますが、より幅広い仕事請け負うことが出来るので楽しみです。

(ワーク:メンバー・K.T)



SSJニュースも
この機械を使って
製作しました。



ジョブアシスト横浜 ~2014年度トピックス~

☆就労移行支援事業所 合同説明会開催！

2014年6月13日、横浜市総合保健医療センターにて、横浜市の就労移行支援事業所10か所が合同で“就労移行支援事業所”を知っていただくための説明会を行いました。これから就職を目指す障がいをお持ちの方やご家族・各関係機関、100名以上の方にご来場いただき、それぞれの事業所の説明を聞いていただきました。来場の皆様からは「一度にいろいろな事業所の特色を知ることができ、自分に合った事業所が探しやすい！」などのお声をいただきました。

その他、ハローワーク・区役所・生活支援センターの方々をお招きし、障がい者雇用の現状や福祉サービス利用手続き、計画相談についての説明を行いました。これまで「働きたいけれど、どこに相談すればよいのかわからなかった」と悩んでいた方々の未来への一歩のお手伝いができたらとの思いを胸に、来年度は7月に第2回を開催予定です。お近くでお困りの方がいらっしゃいましたら、ぜひお声掛けください。

(ジョブアシスト横浜：職員・金子由紀子)

☆職場実習合同面接会参加！

2014年7月15日と2015年1月27日、神奈川労働局主催の職場実習合同面接会に参加しました。企業担当者との面接を体験し、職場実習にもつながることを目的として実施されました。実際の企業担当者との面接の練習ができる機会はなかなかありません。来年度も希望者を募り参加をしていく予定です。それでは、参加された方の声をお届けします。

■「職場実習合同面接会体験記」

ジョブアシスト横浜所属 K・K

2015年1月27日(火)に神奈川労働局主催の職場実習合同説明会に初参加致しました。面談は3時間限りの全6社。1社あたり12分枠。会場は完全予約制のため、応募総数や採用人数等の把握はできませんでした。各ブースには担当者2~3名による支援者同伴の面談でした。働く障害者最多43万人。厚労省調査では、精神障害者雇用義務化による2018年施行を見込み、24.7%大幅増加。障害者全体で雇用率は1.82%。前年を5.3%上回り、11年連続で過去最多を更新。法定雇用率の2%には至らないが、企業採用に広がりを見せているという明るい兆しの報道もされています。通所から2ヶ月あまり。小さな目標を積み重ね日々勉強中の私には、本採用に向けての今年初めてとなる体験でした。開始時、待合室では同系色のスーツ姿の方々に埋まり、合同面接会特有の重々しさが感じられました。会場にはそれぞれの人間史が繰り広げられ、ユニークで繊細な個性を併せ持つ戦友が集う場所という感じでした。担当者からは、実習における通勤方法や勤務地及び病状と体力の確認を中心に、希望職種のイメージを問われました。経過とともに緊張感もほぐれる談笑もおこり、穏やかな雰囲気も垣間見えました。輝く未来への投資に”人のために何ができるか。何を残し伝えてゆくべきか”を視覚化することで、日常風景にある”働く場の提供”が創られていきます。”活動の視野を広げ展望の可能性を確かめてゆきたい。”という思いが先方に届いたかは、はっきりとはわかりません。ただ、就労に向けての一歩が踏み出せない方やブランクがある方には、現場の空気に触れる大変良い機会になると思います。

メンバー・従業員の「声・こえ・コエ」

「これだけは、やめられませ〜ん！はまっています」



今はまっていることは2つあります。1つは筋トレで、もう1つは音楽です。今回は筋トレについて話します。筋トレを始めたきっかけは、病気になってから体重が増えたことです。病気になったころは、精神的にも不安定で体重のことは気にしていませんでした。時が経ち、落ち着くと体重が気になりだし、家の周りを散歩したりランニングをしたりしましたが体重は減らず長続きしませんでした。そのため、家で腕立て伏せと腹筋をするようにしてから、徐々に体重が減ってきましたが、腹がへこまなくて悩んでいた時に「自分の体は何歳からでも、いつでも、自分で作る」と家族の話を思い出し、自分を奮い立たせました。戸塚売店の仕事を始めて仕事にも慣れた頃には、今までの筋トレでは物足りなくなり、ダンベルを買って仕事から帰って来た時や休みの日には、音楽を聞きながら1時間30分くらいかけて筋トレをしています。やり続けてきて体がしまってきました。腹が少し6パックになりました。薬の副作用で、太る？ようですが、筋トレをやり続けてきて体がしまることを実感しました。今年35歳になります。筋トレを本格的に始めて自分自身に自信ができました。自分の体を作ることは何歳からでも遅くないと思います。

(さら:梶原 実)

はじめまして、さらメンバーの小笠原です。“これだけはやめられない”ですが、ズバリ“歌を歌うこと”です。きっかけは、去年の3月頃、1冊の本に載っていた歌手のオーディションです。挑戦しましたが、見事に落ちてしまいました。落ちてしまいましたが、その後、オーディションの担当者から直に電話があり「歌のレッスンをしてみないか」と言われて、ボイストレーニングを始めました。初めは、不安で仕方なかったのですが、やっていくうちに段々と上手くなっていきました。3ヶ月程やって色々なことがあって辞めてしまいましたが、家では、毎日、歌の練習を続けています。毎日やってみて思うのですが、毎日同じように歌うということが大変なことだとわかりました。声の調子もちろんですが、同じメロディーを歌い続けると飽きてしまいます。しかし、自分は信念が強いので、毎日、欠かさず“歌を歌って”います。これからも仕事同様、声が出なくなるまで歌い続けていくつもりです。限りある未来に向かって…。 (さら:小笠原 清)



「医学界より先に病気に気付いて」

かつての私は自分が病気であることを知らず何度もピンチに陥ったものでした。目が覚めても顔を洗う気力すら湧いてこないほどの虚無、絶望、孤立に長期間陥り、アパートの片隅で朽ち果て孤立死しそうになっていました。ほとんど外出すらできない状態で私はどうやって食料を手に入れ、どうやって生き延びたのでしょうか？ほとんど思い出せません。1995年、誰に指摘されずとも自分が精神病であることに気づきましたが、当時私の病気に取り組めるリハビリグループは世界に一つも無いと思われました。なぜなら私が持つ2つの病気のうちの片方は、2015年現在になっても医学界において未だに病名すら決まっていない新種の精神疾患だからです。私は自覚を持って治療を始めた黎明期の一人です。精神科に通い始め、わたしと類似の病気に取り組む20種類くらいの民間リハビリグループにも独りで飛び込み、どこにもリハビリ出来る場所がないのでこちらで一緒に取り組ませて欲しいと伝え、治療を開始しました。

当時、民間リハビリグループは閉鎖的であり、同じ種類の病人だけを受け入れる（言い換えれば類似だろうが何だろうが種類の違う病人は断じて仲間として認めない）という鉄則がありました。事実、この鉄則に阻まれて追い出され、命を落としてしまった方もいたのです。私も必ずしも歓迎されているわけでは無いことを承知の上で、大規模なグループに約8年間、おそらく1500回ほど通い詰めましたが、鉄則により決してメンバーとは認めていただけませんでした。しかし数ヶ月から数年後には多くの方が「グループとしては認めないが個人としては君を仲間と認めるよ」と言って下さったのが救いでした。私にとってというよりも、かたくなだった彼らが寛容になれたのですから彼らにとって救いであったと思います。私としては、実際に死者が出たにもかかわらず方針を変えようとしないグループに対して関心が薄れ、受け入れて下さるかどうかを重視しなくなっていました。

これと前後して、私自身のためにもそして前述の「行き場を失った方」に居場所を提供し一緒にリハビリに取り組むためにも、私は独立して新たなリハビリグループを設立しました。しかしこの方はグループ設立直前に亡くなられたことを私は知らされたのです。

「なぜだっ！？ 間に合わなかったのか！」

叫びたくなるほどに悔しかった。無念だった。やっと安心できる場所を作ったのに……。

それでも私はリハビリを続けましたが、設立したグループは私の未熟さもあり5年ほどで崩壊しました。そしてこれ以後、すでに私が関心を失っていた従来のリハビリ理論から離れ、全く別の理論に移りいまでも治療とリハビリを続けています。

当時、各方面からの無理解や誤解、冷笑も経験しましたが、めげずに取り組み続けているうちに少しずつ理解者や協力者が現れてくださり、彼らの支えのおかげで治療を続けることができ、なんとか生き延びてこれたように思います。

(すきっぷ OB)

「当事者の在り方について」

福祉の世界は、今まで作業所や生活・就労支援センター、GHの職員の方々が、動いてくれていました。

しかし地域の作業所では、規模が大きくなってしまったために小回りがきかない、もっとメンバーを元気にしたい、そんな問題を解決する試みが考えられてきました。長崎の利用者部会や神戸の評議委員会などは、当事者の運営委員会の参加によっての新しい福祉の形がつくられています。それにより運営がなごやかになり、会議では説明の簡略化により分かりやすくなり、メンバーの皆が元気になっていく等の効果が表れているようです。

『精神疾患からの回復』の著者、ウィリアム・A. アンソニーはその中でいっています。「自己決定が少なくなると、ほとんど症状がなくなっても、能力障害や不利が相まって、回復を制限する」と。

けれども、従来の福祉の土台があつてのことという事実を忘れてはなりません。今、当事者のなかには、新しい権利や能力を示し、知識の向上、情報の交換などで、能動的に動く方々が出てきています。上述の土台の成果を踏まえ、これからは健常者の職員と当事者が協力して運営してみたいかがでしょうか。サービス利用という『枠』を作り、『枠』のなかでの仕事にならないためにも。

地域では、今まで出来ないと思われていたことを、発想の転換により、できるように試みているようです。そのようなサポートも、当事者が身近にいるといないとでは、違うのではないのでしょうか。制度を保っていても、そういうものは生み出せないでしょう。

SSJももっと開かれた福祉施設になることを祈りながらも、今年一月、福祉について考える会をある方の協力を得て、当事者で立ち上げました。福祉施設と共に、福祉を改善していくことを目標にしています。

(ワークショップメンバーズ：R. S)



私はw s mに入る前は新横浜のデイケアに4年間行っていました。そして保健所のケースワーカーと、相談しながら旧作業所えらびのカタログを見ました。そしてここなら続けられそうと入ったのが現在のw s mです。2001年から通っています。

現在は内職作業を主体にやっているととても楽しいです。他にも喫茶とちの木で手軽にコーヒーが飲めたり、おいしいランチを食べながら長年の親友であるメンバーさんや、色々なメンバーさんとコミュニケーションを図っています。

今後のやりたいことは、今の仕事を大切にし調子が戻ったら、とちの木でホールをやりたいです

(ワークショップメンバーズ：小原)



「計画相談支援、始めました」 横浜SSJ相談支援室

横浜SSJ相談支援室は、2014年8月から2015年1月末までに、計画相談支援を新規で16件実施しました。今年の3月までに、現状と課題について細かく分析し、年間何件実施できるか、どのような実施体制が望ましいか、検討してゆく予定ですが、大きくは以下のことがわかっています。

1. サービス等利用計画には、①（これからの1年後に）希望する生活、②（概ね3か月以内で達成すべき）短期目標、③希望する生活に併せて概ね1年間で達成すべき長期目標等、具体的な目標4～6項目が含まれています。その目標達成の状況を毎月あるいは数か月に1回、丁寧にチェックしてゆくの、障害福祉サービスを受けるにあたり、サービス等利用計画を策定し実践することを通じて自らを客観的に見つめ、前向きな努力を続けることの見通しを設定することができます。
2. また、目標達成を、相談支援専門員と一緒に考えながら、その目標を達成するために必要な支援者を探してゆくことができるので、一定期間後には本人を取り巻く支援者チームを編成することができます。
3. 計画を策定するにあたっては必ず本人・家族と支援者3名以上が話し合う（個別支援会議）ことで決めてゆきますので、一定方向に偏らず、バランスよく考え、最適な支援方法を選んでゆけます。

計画相談支援の活用、一度検討してみたいはいかがでしょうか？

横浜SSJ相談支援室へのお問い合わせ先
横浜SSJ相談支援室専用携帯電話 090-2568-5727

《会費・寄付納入報告》

2015年1月末までの会費・寄付の状況です。

- | | | | |
|-------|-----|-------|------|
| ・個人会員 | 43名 | ・団体会員 | 29団体 |
| ・賛助会員 | 8名 | ・寄付 | 2名 |



いつもありがとうございます。精神保健福祉の向上のため、大切にに使わせていただきます。

★編集後記★

いまだに寒い日が続いているので、春が来るのが待ち遠しい今日この頃…。

寒かったり暖かったりと気温の変化に体がついていかず辛い日もありますが、施設に来ているみんなと作業していると気分が晴れていくので不思議です。

(ワーク:メンバー・H.S)